

## 和泉市施設一体型小中一貫校 2017年度 境界はあるけどオープン教室?

### 市教委が示した、施設の設計で重視している要件(2014.2.27)

- ・ 学校規模は最大で各学年3学級。
- ・ 小学校、中学校、共有ゾーンの区分を明確にする。
- ・ 学年の節目を意識させるため小学校の低学年と高学年、中学校1年生から中学校3年生は別階を基本とする。
- ・ 小中学校教員が協働して1つの学校として機能するため職員室は1つとする。
- ・ 体育館、プール、図書室は、小中共用であるが、それぞれの授業等に支障が無いよう大きさ等に配慮する。
- ・ メイングラウンドは200mトラック、両翼90mの野球やサッカーの試合が可能な広さとする。
- ・ 子どもたちの安全確保のため、体育館、外来用駐車場、地域活動室と子どもの動線を分離する。
- ・ 食育推進の観点から学年全体で食べられるランチルームを給食室に隣接させる。
- ・ 様々な発達段階の子どもたちが安全に活動できるよう、遊具等を設置したサブグラウンドを確保する。
- ・ 車椅子対応のエレベーターを設置する。
- ・ 学校と地域の連携を深め、教育活動を支える地域人材が集うことができるよう、土日開放時に管理できる地域活動室を配置する。

### 他にこの間の折衝で明らかになった点(2014.5)

- ・ 保健室は1カ所。仕切り等、小中の独立性についての配慮を考えている。
- ・ 理科室3つ。小学校1、中学校2の3教室を考えている。
- ・ 小中共用部分の階段の段差を小学校仕様にするか中学校仕様にするかは検討中。

### 「教室と廊下の間仕切りをなくする会」

「和泉市の子どもと教育を守る会」は3月、小中一貫教育に関する要望書を市教委に提出し回答を求めました。その中の、はつが野新設校の施設設計について「オープン教室ではなく、壁のある従来の教室にしてください」という要望に対して、市教委の回答は「教室と廊下の間仕切りについて、検討していきます。」というものでした。新設校はオープン教室にする、ともとれる回答です。

「教室と廊下の間仕切りをなくする会」は3月、小中一貫教育に関する要望書を市教委に提出し回答を求めました。その中の、はつが野新設校の施設設計について「オープン教室ではなく、壁のある従来の教室にしてください」という要望に対して、市教委の回答は「教室と廊下の境界がないオープン教室は考えていません。」と、オープン教室ありき、ともとれるものでした。

和泉市教委は、2月の末に行った「施設一体型小中一貫校に係るアンケート」に、施設の設計で重視している要件を11点にわたって書いています。

だが、その中にオープン教室に関わるものはありません。このことは、新設校設計の上で重要な問題といえるのでは

### 池田市では体育館2つに

また、新設校は、小学校約20クラス、中学校約10クラスを合わせた規模を予定していますが、体育館は、1棟のみとしています。同じように施設一体型小中一貫校を2016年度開校予定の池田市では、小学生向けにサブアリーナを建設し、体育館を2棟にすることを決めています。池田市は当初の設計では体育館は1棟の予定でしたが、地域住民から「体育館床のラインはどのように引くのか、小学校用、中学校用のラインを入れると、ラインだらけになり授業に差し支えるのではないか。」などの声が上がりに、設計が変更されました。その例を和泉市教委に示しましたが、回答は「2棟建てるのは、コスト・スペース等の面からも難しいと考える。また、1つの体育館を大きく取り、ネットで仕切ること小中別の使用が可能であり、小中の交流スペースとしての使用も可能になると考えている。」というものでした。ネットで仕切ってもラインの問題は解決しないのではないのでしょうか。

新設校が、教職員など現場の声を十分反映したものとなるよう、私たちは今後も市教委に要望を続けていく必要がありま



教え子をふたたび戦場に送るな!